Publication: Tsushin Kogyo Shimbun (Ono Norio) (NetEvents 2016)

Article Title: Series 5 Collaborating With Fujitsu (Page 4)
Featuring Menlo Security (Peter Frank)

通信興業新聞

通信興業新聞社
発行所　東京都中央区銀座
　　　　７－３－13
発行人　小野憲男
郵便番号　104-0061
電　話　(03)3572-4488(代)
ＦＡＸ　(03)3572-4866
振替口座　00170-6-100661

シリーズ

進化するテレコム市場 ⑤

「NetEvents 2016」から

富士通と協業で新機軸

分離技術が脅威を完全排除

マルウェアの脅威を完全に払拭する新たなソリューション『分離（アイソレーション）プラットフォーム』を提供する米メンローセキュリティは、13年に設立したばかりで、ベンチャーキャピタルと大手ＩＳＰから４５００万ドルの出資を集め、15年1月に本格サービスを開始。米フォーブス誌の「15年の最も注目されるサイバーセキュリティのスタートアップ企業」に選出された。同社は5月26、27日の2日間、シンガポールで開催されたネットイベント２０１６のプレスセッションで、富士通とパートナーシップ契約を結んだことを明らかにした。ピーター・ランク・マーケティング副社長は通信興業新聞のインタビューに答え、「新たに富士通と協業することで、クラウド管理サービスの世界展開に弾みがついた」と強調した。

メンローセキュリティ

メンローセキュリティは、日本市場へのアプローチとして、15年8月にマクニカネットワークスと、16年2月にラックとそれぞれ販売代理店契約を結んでいるが、今回の富士通との新たなパートナーシップにより、日本市場だけでなく、世界各国で富士通が提供するクラウド管理サービスのオプションとしてメンロー社のソリューションを展開する。

同社が提供する『メンローセキュリティ分離（アイソレーション）プラットフォーム（ＭＳＩＰ）』は、仮想環境でコンテンツを実行し、安全なコンテンツのみをユーザに渡す手法をとっているため、間違った判定によりマルウェアがする抜けるリスクを完全に排除する画期的なサービスで、今年のインターロップ東京２０１６「ベスト・オブ・ショウ・アワード」のクラウドサービス部門でグランプリを獲得した。

ピーター・ランク副社長

ＭＳＩＰ開発の背景と仮想環境におけるＭＳＩＰの新規性について、同社のピーター・ランク・マーケティング副社長は通信興業新聞の取材の中で次のように説明した。

「セキュリティ対策製品に投資してもなぜ状況は改善しないのか、従来型の検知手法はマルウェアに対して十分に有効ではない。攻撃の90％はウェブサイトやメール経由で行われる。過去20年間、攻撃を阻止するためにあらゆる手段が開発された。アンチウィルス製品やＩＰＳ（不正侵入防御）、ファイアウォール、最近のサンドボックス技術や機械学習など。しかし、どの対策も十分ではない。従来の対策は〝グッド〟か〝バッド〟かを判別する。根本的に同じアプローチの検知技術によって、〝グッド〟のコンテンツはエンドポイントに到達し、〝バッド〟はブロックされる。そのために誤検知が頻繁に起きている。メンローセキュリティが開発した新しいアプローチはマルウェアを検知するというものではない。従来のマルウェアを検知するセキュリティ対策製品の大半は〝グッド〟と〝バッド〟を判別して検知結果を出すが、この方法では脅威を完全には防げない。メンローセキュリティのＭＳＩＰの全く新しいアプローチにより〝分離〟上では、マルウェアがエンドポイントに侵入できない環境ですべてのコンテンツを実行する。論理上、〝アイソレーション（分離）〟すればマルウェアを１００％排除でき誤検知も過検知も起こらず安全なセキュリティが実現する。しかし、現実的にはユーザ体験を変えることなく大規模に〝分離〟を導入するのは非常に困難。そこでメンローセキュリティでは2つの画期的な改良を実現した。１つは〝分離〟をクラウド上で大規模に稼働させる技術、もう2つめはエンドポイントにソフトウェアを必要とせずにユーザ体験を完全に維持できるレンダリング技術、この2つの技術により、どんな規模の企業でも全従業員に対して〝分離〟を提供できる。メンローセキュリティの新しいＭＳＩＰは、感染したウェブサイト、ドキュメント、メール、詐欺サイトなど多数のサイバー脅威の要因に有効。ＭＳＩＰはコンテンツの読みこみとユーザのウェブセッションの完全な実行をユーザのリクエストの代わりに行う。１００％安全なレンダリング情報だけがユーザの端末に送られ、ネイティブブラウザに渡される。エンドポイントのソフトウェアやプラグインは不要。ウェブサイトの〝グッド〟コンテンツも〝バッド〟コンテンツも分離プラットフォームにとどまり、ユーザの端末には到達しない。メンローセキュリティは〝分離〟をユーザに対して完全に透過的かつ簡単に展開できるスクリプトを開発した。これにより悪意あるリンクやメールを阻止し、データ盗難や詐欺サイトの被害を防ぐことができる」

メンロー社は6月7日、同社独自の開発ツールを用いて、日本の閲覧数上位50（16年5月5日時点）のウェブサイトの脆弱性に関する調査レポートを公開した。これによると、上位50のウェブサイトのうち15のウェブサイトから脆弱性が報告されているバージョンのウェブサーバＯＳが使用されており、それら15のウェブサイトのうち半数以上がよく知られた誰もが使用する、信頼性が高いと一見思われるウェブサイトであった。また、上位50のウェブサイトのうち、30％以上のウェブサイトで30を越えるスクリプトが実行され、最大で99のスクリプトが実行されていた。さらに、上位50のウェブサイトからダウンロードされＰＣ上で実行されているコード（スクリプト）サイズは平均１メガバイトを越えていることも分かった。これらのスクリプトは悪意のあるウェブサイトへ勝手に誘導するなどのウェブアクセスを通じたサイバー攻撃に利用される危険性をはらんでいる。今回の調査では、これらのスクリプトに脅威は見つかっていないが、普段、使用している信頼性が高いと思われるウェブサイトにおいても、サイバー攻撃の脅威が潜んでいる可能性があるという、ウェブセキュリティにおける課題が浮き彫りとなった。

取材に対してランク副社長は、日本でのソリューション本格提供に向けた営業戦略について、「これまで金融機関をターゲットに営業展開してきたが、日本では製造業、とりわけ鉄鋼大手との商談が進展しているほか、政府機関にも照準を当てている。さらに今回新たに富士通とのパートナーシップにより、同社がグローバル展開しているクラウド管理サービスに当社の製品が含まれることで、企業は容易に導入可能なソリューションを活用できる」と述べ、日本進出によるビジネス拡大に期待する。

ネットイベント会場